

1. 公開情報

1.1 幸手市について

(1) 地勢

(統計さって 令和4年版¹⁾より引用)

幸手市は、埼玉県の北東部にあり、東経139度43分、北緯36度4分に位置しています。面積は、33.93 km²、市域は東西8.8 km、南北が7.6 kmです。

地形は、平坦で標高の最も高いのが外国府間地区の15.9 m、最も低いのは戸島地区の4.7 mとなり、標高差はわずか11.2 mです。

表 1-1 幸手市の位置及び面積、高さ

緯度経度		面積	東西距離	南北距離	海拔	
東経	北緯				最高	最低
139度43分	36度4分	33.93 km ²	8.8 km	7.6 km	15.9 m (外国府間地区)	4.7 m (戸島地区)

統計さって 令和4年版¹⁾及び市ホームページ²⁾参照

(2) 土地利用

(第2次幸手市都市計画マスタープラン³⁾より引用)

本市の土地利用現況として、市街化区域内においては、住宅系の土地利用のほか、幸手駅周辺や幹線道路沿道においては商業系、また、幸手中央地区産業団地、幸手工業団地、幸手ひばりヶ丘工業団地では工業団地が形成されています。市街化調整区域については、田・畑を主とした土地利用がなされています。

(幸手市洪水ハザードマップ⁴⁾より引用)

洪水ハザードマップによると、大雨時に利根川及び江戸川が氾濫した場合の浸水想定区域は、市内全域に存在しています。想定される浸水深として、利根川の場合、幸手駅周辺等の中心市街地において、0.5 m～5.0 m、その他の市街化区域内の市街地においても、3.0 m～5.0 mの浸水が想定されています。江戸川の場合、おおむねの範囲において0.5 m～3.0 mの浸水が想定されていますが、このうち市南東部において、3.0 m～5.0 mの浸水が想定されている箇所があります。

(3) 人口特性

■人口・世帯数

(第2次幸手市都市計画マスタープラン⁵⁾より引用)

本市の総人口は、国道4号の開通や東京通勤圏内として宅地開発が行われたこと等を背景に、昭和35年(1960年)以降は増加傾向にありましたが、平成7年(1995年)の58,172人をピークに減少傾向となっています。

本市の世帯数は、核家族化の進行や単独世帯の増加等により、一貫して増加傾向にあります。それらに反して1世帯平均人員は減少傾向にあります。

(市ホームページ⁶⁾及び第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略⁷⁾より引用)

令和6年(2024年)5月1日時点の人口は48,902人、世帯数は23,382世帯となっています。令和22年(2040年)以降には40,000人を下回り、令和42年(2060年)には34,478人となることが推計されています。

年齢別区分で見ると、年少人口割合は令和2035年(令和17年)の8.4%を底として、2060年(令和42年)には11.9%まで上昇する見込みです。

生産年齢人口割合は、2045年(令和27年)50.0%を底として、上昇傾向に転じる見込みです。

老年人口割合は、2045年(令和27年)が41.1%とピークを迎えますが、その後下降傾向に転じる見込みです。

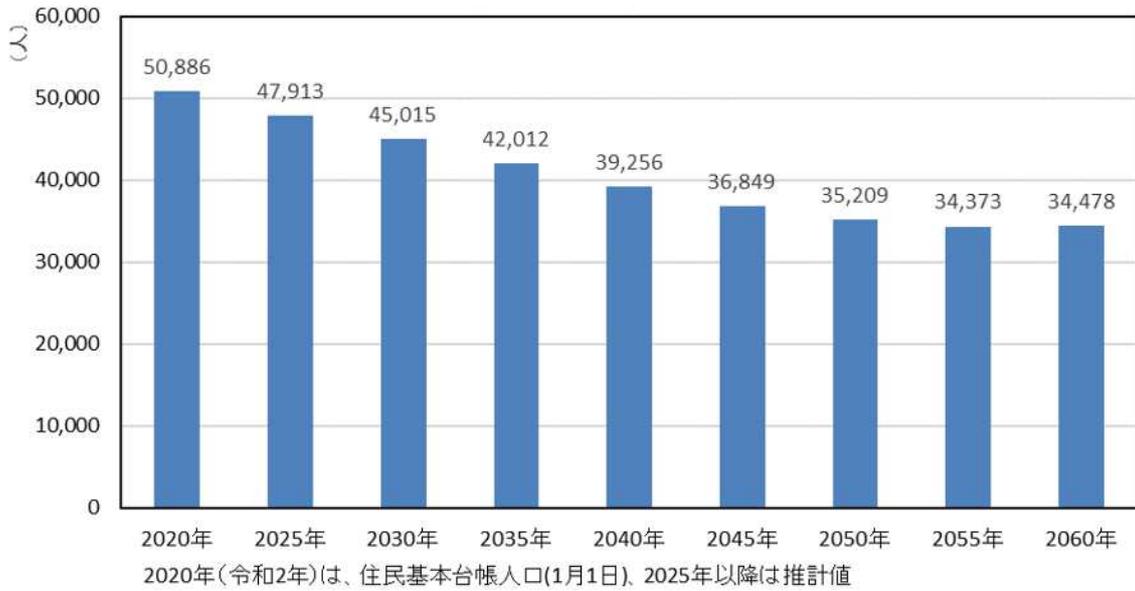
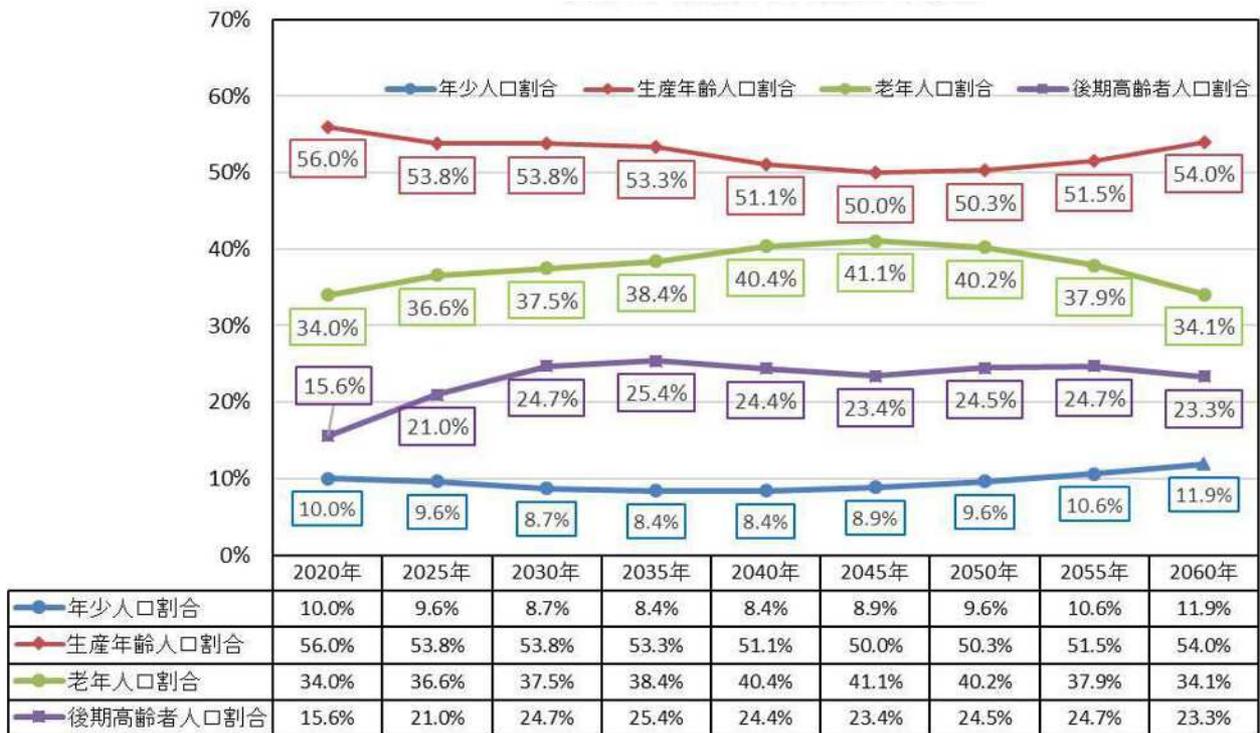


図 1-1 総人口の推計

第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略⁷⁾より引用



※2020年(令和2年)は、住民基本台帳人口(1月1日)、2025年以降は推計値

※老年人口割合の人口は、後期高齢者人口割合の人口を含む。

図 1-2 年齢4区分別人口割合の推計

第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略⁷⁾より引用

■人口密度・人口集中地区

(第2次幸手市都市計画マスタープラン⁸⁾より引用)

令和3年(2021年)時点における人口密度は、市街化区域内を中心に大半が40人/ha(都市計画運用指針における既成市街地の人口密度の基準)以上となっています。特に、幸手団地等では100人/ha以上の状況であり、高い人口集積が見られます。

令和23年(2041年)の推計においては、全市的に人口密度が低下する見込みであり、幸手駅周辺の中心市街地等においても、40人/haを下回る地区が存在します。

(第2次幸手市都市計画マスタープラン⁹⁾より引用)

本市の人口集中地区(DID)について、昭和35年(1960年)時点においては、都市計画道路中央通り線沿いの市街地にとどまっていたが、国道4号の開通や、高度経済成長期の人口増加に伴う宅地開発等も相まって、それらを含む周辺の市街地において成熟した住宅地形成がなされてきました。

本市の人口ピークである平成7年(1995年)以降は、人口集中地区内の人口密度は減少傾向にありますが、人口集中地区(DID)の面積はおおむね横ばいで推移しています。

(4) 公共交通

(幸手市地域公共交通計画¹⁰⁾より引用)

■公共交通ネットワーク

本市の公共交通ネットワークは、市内の西寄りを通り東京都心方面と栃木県方面をつなぐ東武日光線、本市を經由して近隣市町をつなぐ朝日自動車の路線バス、タクシーおよび市内各方面を運行する市内循環バス5路線で構成されています。

幸手駅が乗り継ぎ拠点となっており、路線バス、市内循環バスが乗り入れるほか、タクシーが待機しています。また地域によっては杉戸町の杉戸高野台駅や久喜市の東鷲宮駅が最寄り駅となっています。

市内循環バスは、市役所、幸手市保健福祉総合センター（ウェルス幸手）でコース間の乗り換えができるようになっています。

■鉄道

東武日光線の幸手駅の乗降客数は微減傾向が続いていましたが、コロナ禍で大きく落ち込んでいます。

幸手駅の乗降客のうち、定期券利用客が7割程度を占めており、通勤・通学での利用が多いことがうかがえます。

※コロナ禍以降の幸手駅の乗降客数は、落ち込んでいますが、その後回復傾向にあります。

■路線バス

本市を運行する路線バス（朝日自動車）の利用客数は横ばいまたは微減傾向が続いていましたが、コロナ禍で大きく落ち込んでいます。

※コロナ禍以降の路線バスの利用客数は、落ち込んでいますが、その後回復傾向にあります。

■市内循環バス

市内循環バスは、5路線（中央コース、東Aコース、東Bコース、西Aコース、西Bコース）を運行しています。

令和5年（2023年）の全コース合計の利用客数は、前年の同時期と比べて増加しています。

1日当たりの利用客数は令和4年（2022年）10月以降、80～90人程度で推移しており、ほとんどが中央コースの利用客です。東コース、西コースの1便当たりの利用客数は、少数の利用となっています。

1. 公開情報

1.2 公共施設について

(1) 公共施設の年度別建築状況

(第6次幸手市総合振興計画基本構想・後期基本計画¹¹⁾及び幸手市公共施設等総合管理計画¹²⁾より引用)

市では、昭和40年代後半から50年代にかけての人口急増を受け、この時期に学校をはじめとする多くの公共施設を建設してきました。

日本建築学会の「建築物の耐久計画に関する考え方」によると、建築物の更新の目安は築60年、大規模修繕の目安は築30年とされています。本市では、昭和40年代から公共施設の整備量が増加し、現在は大規模修繕時期の築30年を経過した公共施設が全体の6割を超えています。今後はその割合が増加し、施設の老朽化が進行していく状況が見込まれます。

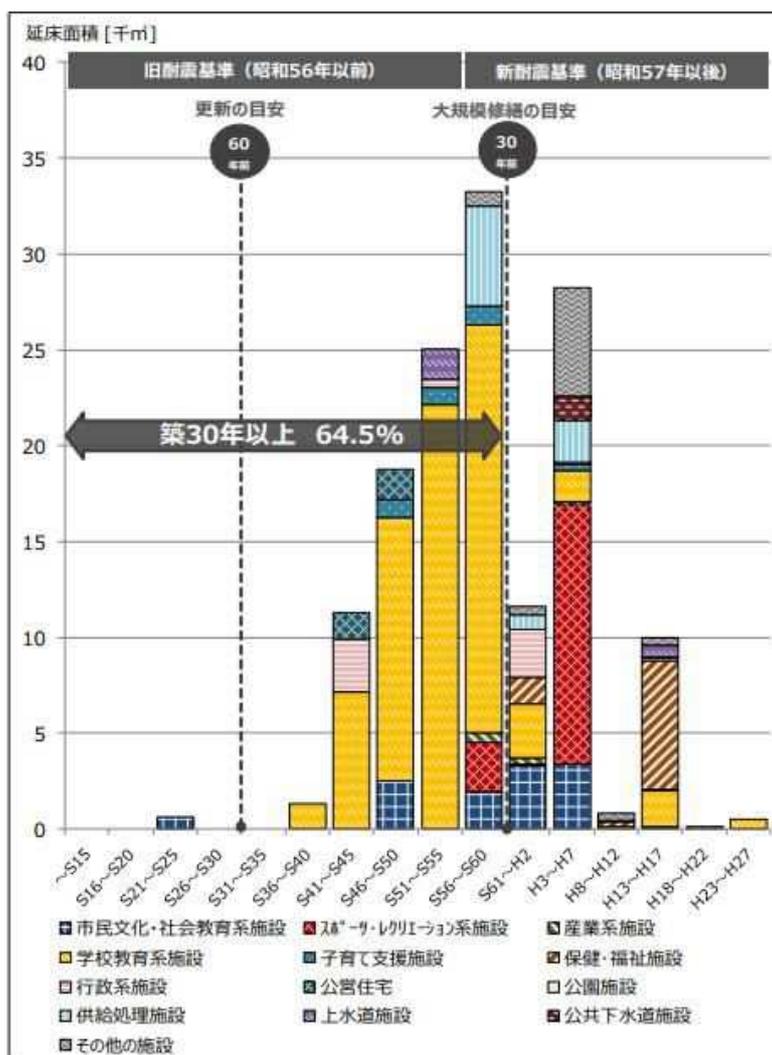


図 1-3 建築物系公共施設の建築年度別延床面積

幸手市公共施設等総合管理計画¹²⁾より引用

(2) 施設計画

(幸手市公共施設個別施設計画¹³⁾より引用)

■図書館

市民の利便性を考慮し、図書館本館、香日向分館の2か所に配置しています。市民の生涯学習活動を支える拠点施設となっています。

図書館は、築後30年以上が経過し、劣化による設備の不良等が生じていることから、第Ⅲ期中を目安に、他施設の余裕スペースへ機能移転し、建物は廃止する方向で検討していきます。

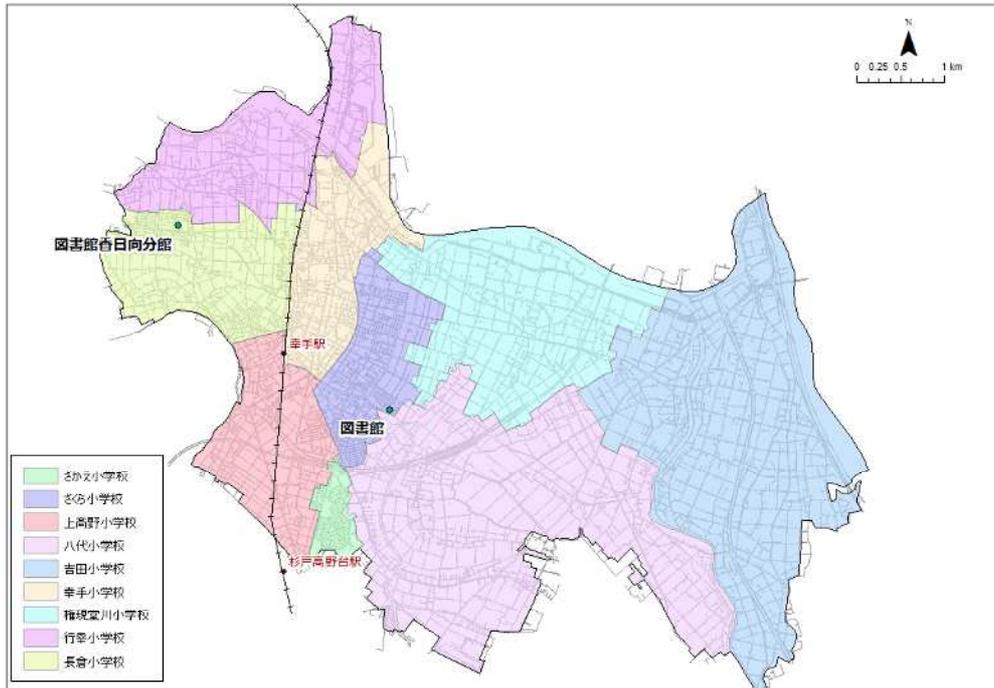


図 1-4 図書館分布図

幸手市公共施設個別施設計画¹³⁾より引用

■集会施設

コミュニティセンターは、幸手西地区開発に伴い平成3(1991)年に開設しており、イベントが開催できる集会施設を備えるなど、地域住民の連帯感の醸成及びコミュニティ形成の促進を図るための施設となっています。

公民館は、市内に5館配置され、各地域の社会教育活動拠点及び地域行政の拠点として位置付けられています。築後30年以上経過する施設が大半を占めていることから、適切な維持管理を図る一方で、公民館以外の新たな機能を保有させることによる建築物の複合化や、将来的な公民館機能の統廃合、他施設への機能移転などについて、検討していきます。

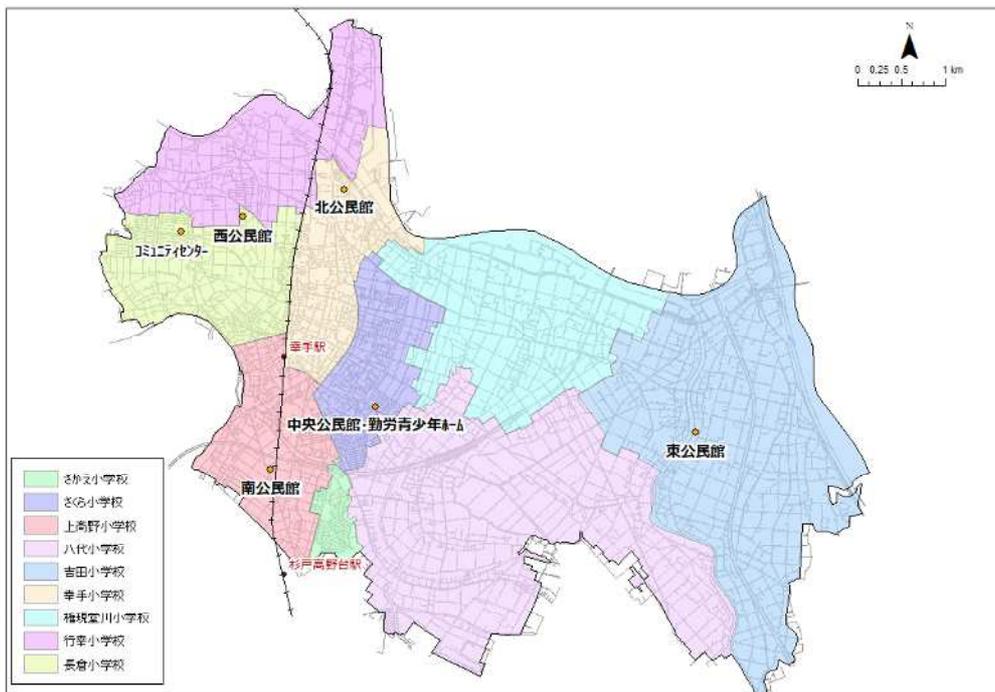


図 1-5 集会施設分布図

幸手市公共施設個別施設計画¹³⁾より引用

(第 6 次幸手市総合振興計画基本構想・後期基本計画¹⁴⁾より引用)

■消防署

建造物が密集した地区では、発災後に被害の拡大が想定されることから、それぞれの地域特性に応じた対策の強化が求められています。また、幸手消防署は、昭和 49 年（1974 年）の建設からまもなく 50 年を迎えます。災害時や緊急時の消防署の対応は市民の生命・財産を守ることに直結するため、老朽化した消防署の建替え・整備が必要となっています。

出典リスト

- 1) 幸手市：『統計さって 令和4年版』令和6年3月 p.3
- 2) 幸手市ホームページ：『地形のなりたち 幸手の位置と高さ』
<https://www.city.satte.lg.jp/soshiki/kankyoku/1/sattacityenvironmentnavigation/sattenokankyowomanabout/sattenoter/6570.html> (令和6年7月18日参照)
- 3) 幸手市：『第2次幸手市都市計画マスタープラン』令和4年3月 p.26
- 4) 幸手市：『幸手市洪水ハザードマップ』令和4年3月
- 5) 幸手市：『第2次幸手市都市計画マスタープラン』令和4年3月 p.8
- 6) 幸手市ホームページ：『幸手市月別人口推移（住民基本台帳人口）』
<https://www.city.satte.lg.jp/soshiki/shimin/2/14058.html> (令和6年7月18日参照)
- 7) 幸手市：『第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略』令和4年10月（改定）
pp.15-16
- 8) 幸手市：『第2次幸手市都市計画マスタープラン』令和4年3月 p.11
- 9) 幸手市：『第2次幸手市都市計画マスタープラン』令和4年3月 p.13
- 10) 幸手市：『幸手市地域公共交通計画』令和6年3月 pp.14,16-17,19
- 11) 幸手市：『第6次幸手市総合振興計画基本構想・後期基本計画』令和6年3月
p.16
- 12) 幸手市：『幸手市公共施設等総合管理計画』令和4年3月（改訂） p.6
- 13) 幸手市：『幸手市公共施設個別施設計画』令和2年11月 pp.23-26
- 14) 幸手市：『第6次幸手市総合振興計画基本構想・後期基本計画』令和6年3月
p.110